

有田内山グランドデザイン

ARITA UCHIYAMA GRAND DESIGN

ダイジェスト版

令和4年3月

有田町まちづくり課

あったら「よかね」がうちやまにある

昼も夜も
にぎわうお店

安心して
歩ける道

楽しい
マルシェ

でんせん、
でんちゅうの
ないまちなみ

みんなで
使える広場

シェア
スペース

チャレンジ
できる仕組み・場所

相談できる
コンシェルジュ

いきいきと
はたらく場所

生活・仕事・教育
のサポート

しゅくはく
できるこみんか

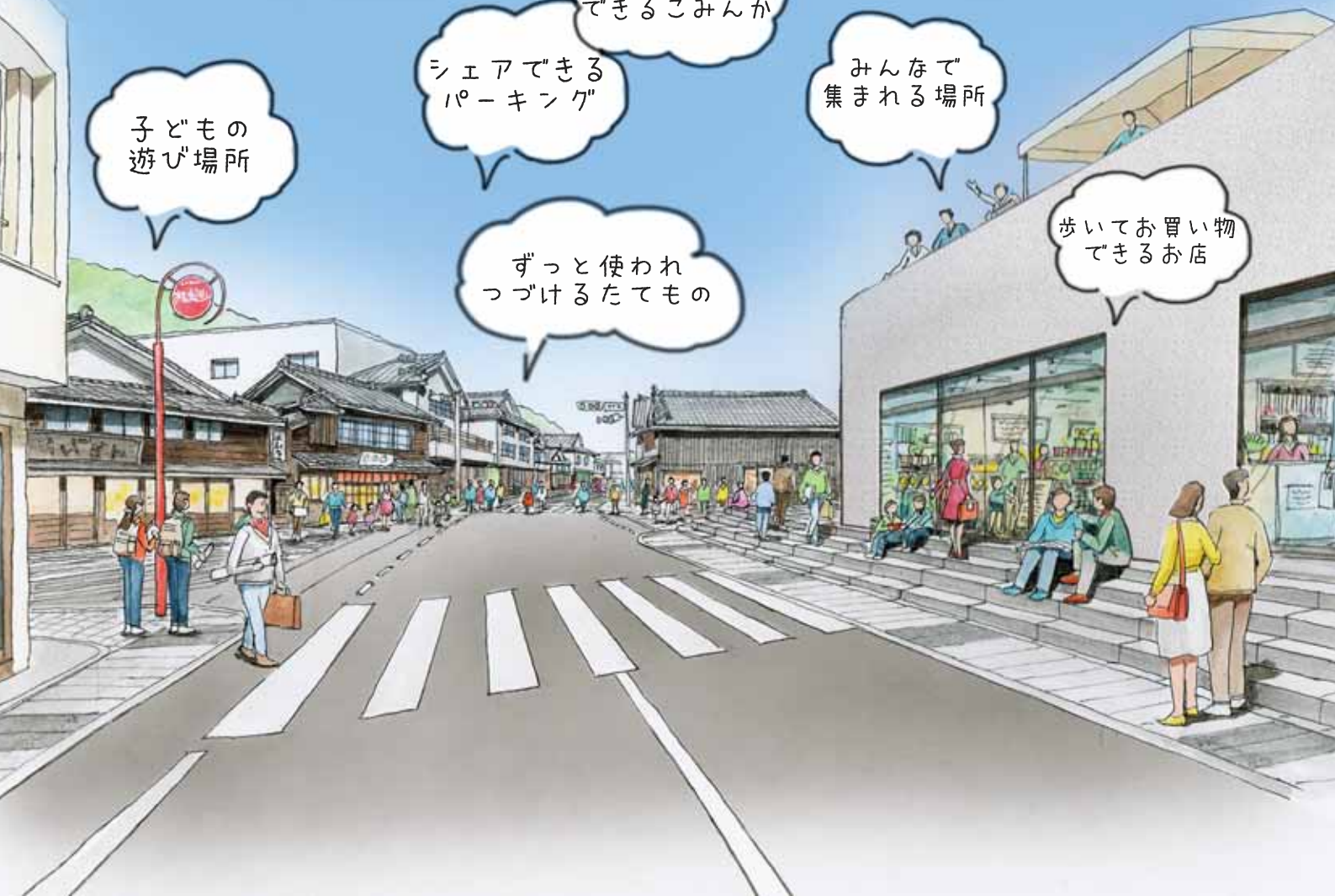
シェアできる
パーキング

みんなで
集まれる場所

子どもの
遊び場所

ずっと使われ
つづけるたてもの

歩いてお買い物
できるお店



01. 有田内山グランドデザインとは

有田内山地区は、朝鮮人陶工金ヶ江三兵衛（通称李参平）らが、磁器の焼成に成功し、泉山にて豊富な磁器原料を発見した17世紀初頭以降に、佐賀藩によって人工的に創出された磁器生産の専業地として始まりました。その後、有田焼の海外輸出などにより、一時は世界の磁器生産の中核地としても栄え、その町並みは有田千軒とも称されました。

近代に入ってからには経済不況等により窯業は大きな打撃を受け、窯元や商店の移転廃業が進み、地区内の空洞化が大きく進行しました。また、その影響により、地区の活力である産業面や観光面のほか、人口流出や生活利便性及び地域コミュニティの希薄化等、生活面にも影響が及んでいます。

これまで、主要道や公共下水道整備などの生活環境整備、小学校改築、空き物件インフォメーションの運営や各種奨励金制度などの事業を行ってきましたが、現在も人口は減少し続けており、今後も生活基盤、産業基盤の整備を進めていかなければ、これらの課題が進行していくと考えられます。

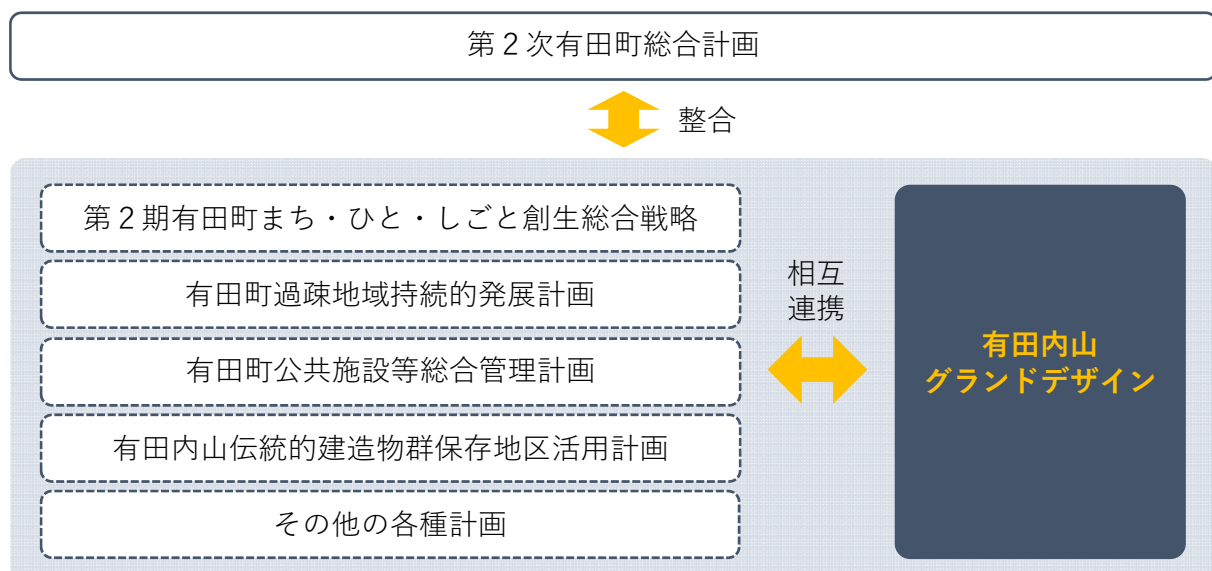
これらの課題を解決し、内山地区を再生していくための方向性を示すことが、有田内山グランドデザインに課せられた使命であります。

02. 有田内山地区の区域

内山には文政の大火後の江戸後期から、明治、大正、昭和初期にわたって、その時代を代表する漆喰壁の町屋や洋風建築などが建てられ、変化に富んだ独特な町並みが形成されています。現在もその風情を残した歴史的価値の高い建物や景観が多く残されており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に、2017年には国際記念物遺跡会議（イコモス）の国内委員会の「日本の20世紀遺産20選」に選定されています。

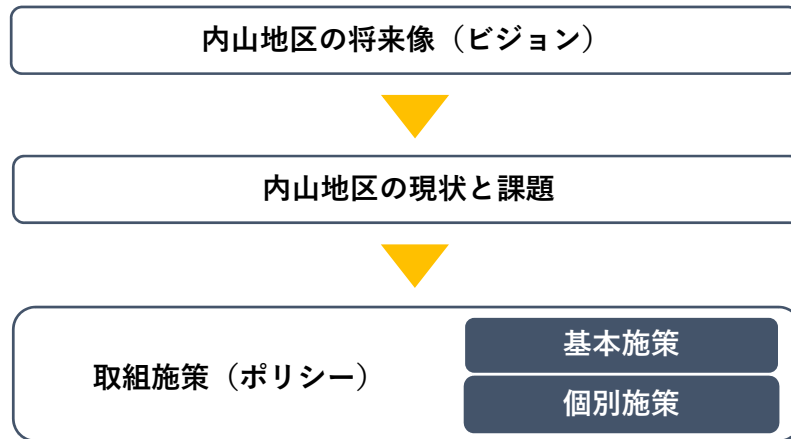
03. 関連計画との位置付け

有田内山グランドデザインは、既に策定された計画の内容を踏まえながら、関連する事業計画等と整合性を図ったうえで策定します。



04. 有田内山グランドデザインの骨子

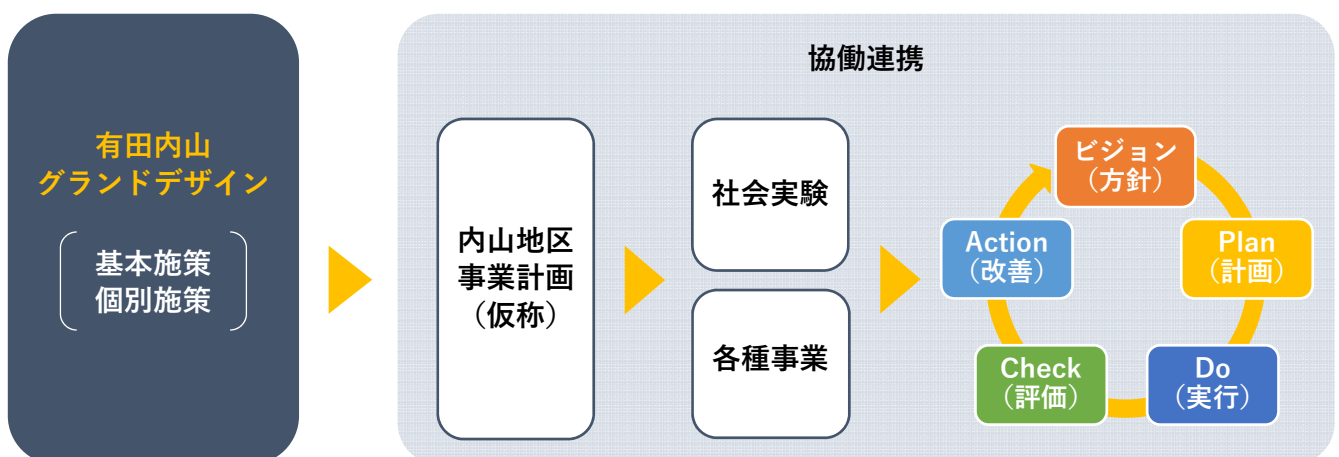
有田内山グランドデザインの主な構成は下図のとおりであり、内山地区の目指す姿（ビジョン）の実現に向けて、現状と課題を踏まえた「まちづくりの基本施策」に基づき、関係機関・団体と協働連携して各種事業に取り組みます。



05. 骨子に基づく事業推進計画

事業の推進にあたっては、行政だけでなく地域住民や民間事業者、NPO等、様々な主体がまちづくりに参画し、一体となって取り組んでいく必要があります。

関係機関・団体と協働連携した取り組みを行っていく中で作成する事業計画（「内山地区事業計画（仮称）」）に基づき、実施する事業の有効性や問題点の洗い出しを行うなど、PDCAサイクルによって事業を展開し、内山地区のビジョン実現を目指します。



06. 目指すまちの姿

内山地区での「暮らしやすさの実感」と「賑わいの創出」に向けた方針として、「心地よい暮らしの実現」と「歩く魅力を体感できる内山」、「次世代へつなげる活力の創出」を大きな柱として、これまで気づいていない内山地区の魅力を見つけ、それを育み新たなステップに向けて「前に進む」という考えのもと「有田内山、その先へ」というビジョンを掲げ、目指すまちの姿の実現に向けて取り組みます。

VISION

「有田内山、その先へ」



方針
1

伝統的雰囲気と魅力ある居住環境の形成
心地よい暮らしの実現

内山地区が有する歴史的景観や生活文化など伝統的な雰囲気を楽しみ、子どもから高齢者まで誰もが心地よく暮らすことができる居住環境の形成を目指します。

方針
2

地域の特性を踏まえた交通環境の形成
歩く魅力を体感できる内山

豊かな自然や重要伝統的建造物群といった貴重な地域資源がある内山地区。ライフスタイルの変化や地域特性を踏まえ、内山の魅力を体感できる交通環境の形成を目指します。

方針
3

“界索性”を高める交流拠点機能の充実とにぎわいづくり
次世代へつなげる活力の創出

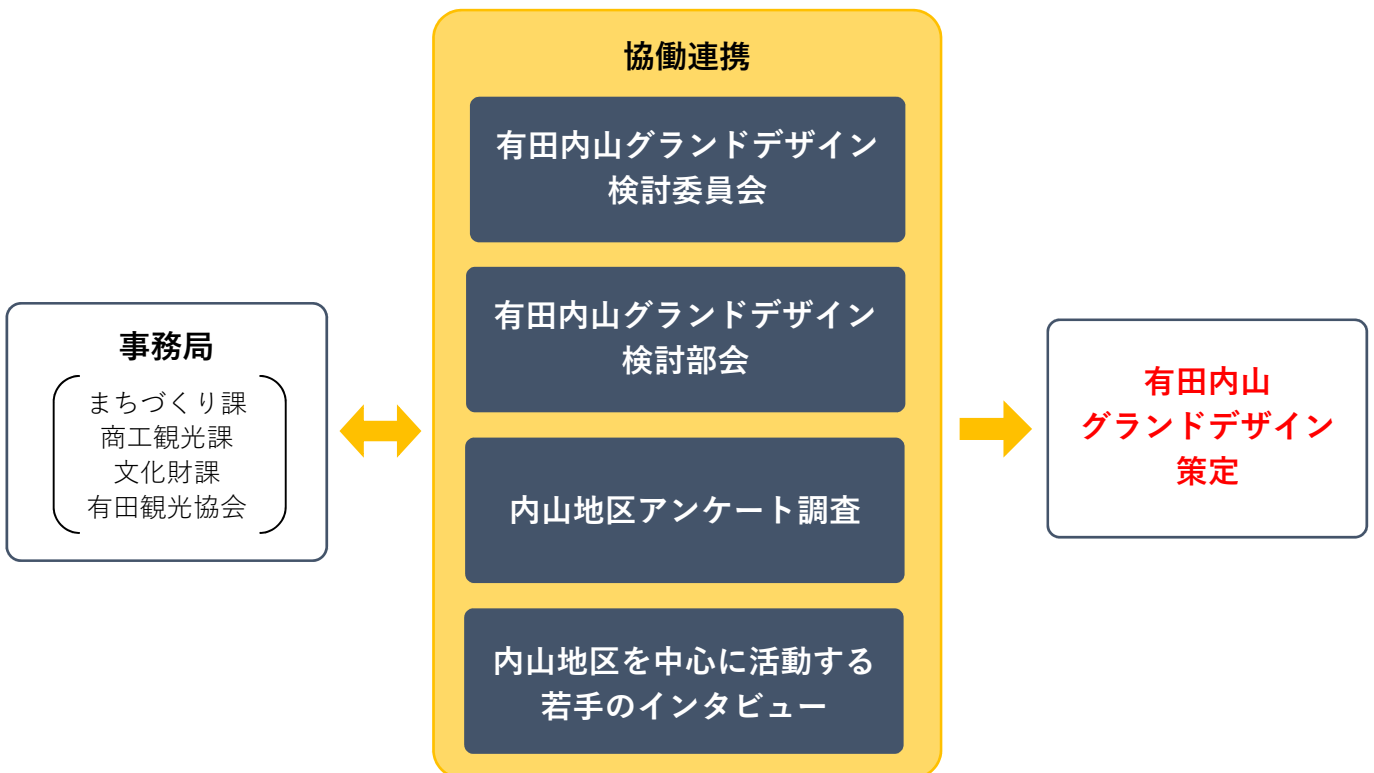
新産業が芽生え、伝統産業の魅力の最大化を進めながら、地元の人や来訪者も含めた多種多様な人々が往来しつながらコミュニティを形成している“界索性”のある地域を目指します。

07. 内山地区の現状と課題

課題1	課題2	課題3	課題4
人口減少対策	生活利便性の向上	産業振興	観光振興
 <ul style="list-style-type: none"> ○都市部への若者の流出や少子化による人口減少 ○空き家・空き地の増加 ○空き家・空き店舗の活用促進 	 <ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な店舗等の移転・廃業 ○地域住民の移動手段の確保 ○地域コミュニティの希薄化 	 <ul style="list-style-type: none"> ○生活様式の変化等による産地機能の低下 ○表通りの商社・商店の移転・廃業 ○空き家・空き店舗を活用した新産業の創出 	 <ul style="list-style-type: none"> ○年間の観光客のうち約半数が「有田陶器市」での観光客であり、通年での集客が課題 ○様々なツールを活用した情報発信

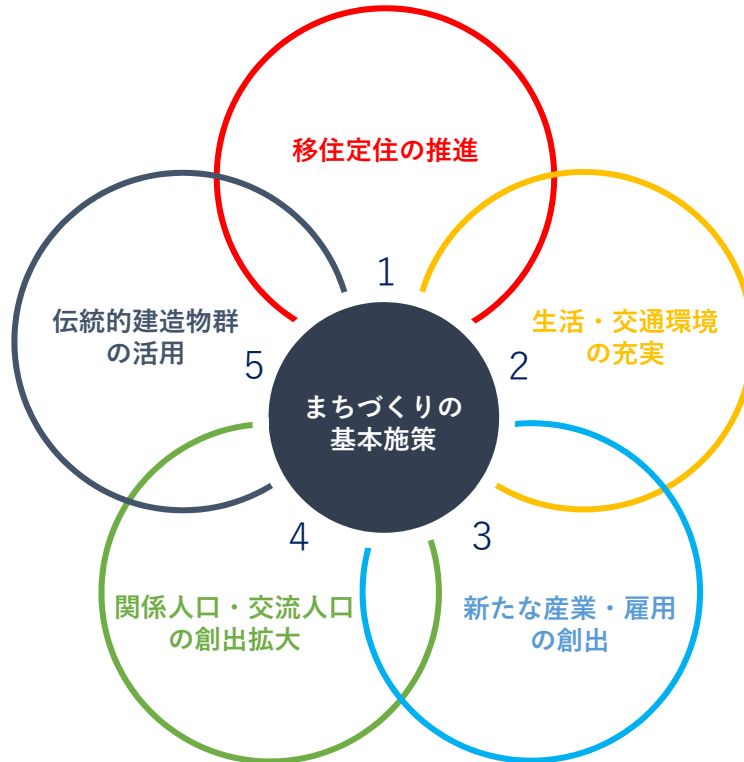
08. 策定にあたっての協働連携

内山地区の中・長期的な方向性を検討するため、有田内山グランドデザイン検討委員会及び検討部会を組織するとともに、内山地区の居住者や事業者を対象としたアンケートやインタビューを通じて、町民の皆様のお声を幅広く聞く機会を設けました。



09. まちづくりの基本施策と重点施策

内山地区の課題解決に向けた具体的な取組みを推進していくにあたり、以下の5つの施策を「まちづくりの基本施策」とし、それぞれの基本施策において優先順位が高い施策を「重点施策」として地区の課題解決に向けて取り組めます。



基本施策	重点施策
1 移住定住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○内山地区内の空き家・空き地の現況把握と情報発信 ○関係機関・団体と連携協働した空き家・空き地の流動化 ○内山地区の特色を活かした体験施設の整備と教育施策の検討
2 生活・交通環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生活支援サービス ○地域住民が交流できるコミュニティスペースの整備 ○相互連携による安全・安心な暮らしの確保
3 新たな産業・雇用の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○内山地区の特徴を活かした産業間連携と異業種交流 ○空き物件を活用した新しい産業集積と起業・創業支援
4 関係人口・交流人口の創出拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○内山地区の歴史・文化を活かした産業観光による集客の推進 ○次世代の情報技術を活かした情報発信と駐車場への誘導支援 ○古民家を活用した滞在客向けの宿泊施設の整備
5 伝統的建造物群の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統的建造物が持つ歴史的価値を可視化した情報発信 ○関係機関団体と連携した伝統的建造物の住みやすい環境づくり

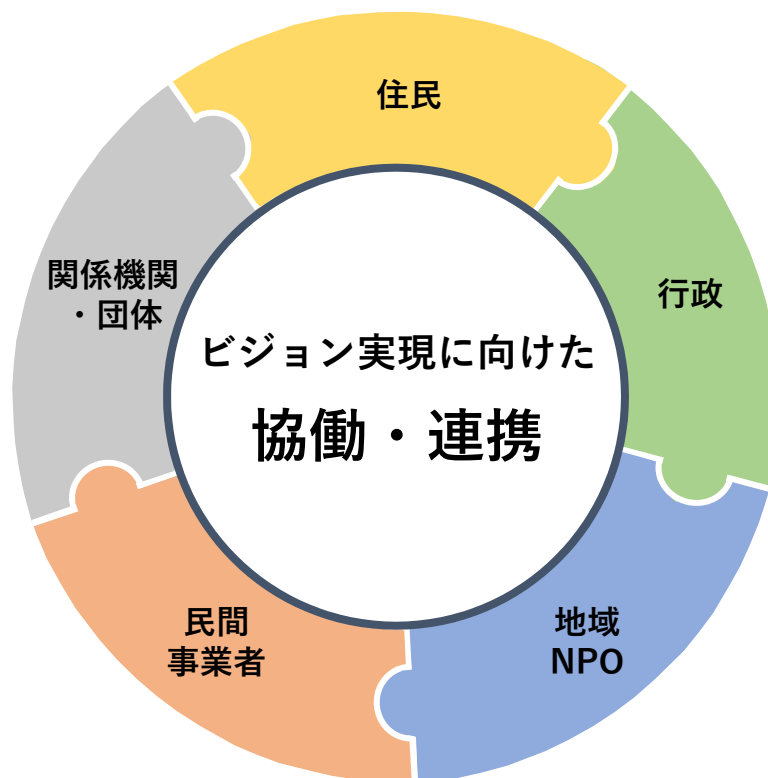
10. まちづくりの基本施策と個別施策

基本施策 1	個別施策
移住定住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○表・裏通りの空き家等の現況把握 ○空き物件情報の提供・発信の充実 ○住民・NPO・民間事業者・行政の協働・連携 ○表・裏通りの空き家等の流動化 ○未利用地の利活用の推進 ○「内山暮らし」を体験できる環境整備 ○「内山らしい」特色ある教育環境と情報発信 ○暮らしに必要な情報提供の充実
基本施策 2	個別施策
生活・交通環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心な暮らしの確保 ○札の辻周辺の地域交流拠点の整備 ○買い物・通院支援サービスの充実 ○地区内の交通体系の再構築
基本施策 3	個別施策
新たな産業・雇用の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○空き物件を活用した新しい産業の集積 ○陶磁器産業とクリエイティブ産業等との連携支援 ○空き物件を活用した新しい起業・創業支援 ○陶磁器産業の課題解決に向けた取り組み支援
基本施策 4	個別施策
関係人口・交流人口の創出拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○古民家を活用した民泊の導入支援 ○札の辻周辺の観光交流拠点の整備 ○駐車場の利用促進と誘導支援 ○回遊性を高める道路環境の整備 ○次世代の情報技術を活用した魅力発信 ○町並み景観などを活かした集客の推進 ○表通りの空き店舗の利活用と流動化 ○産業観光の取り組みや体験・見学による集客の推進 ○住民による景観の演出
基本施策 5	個別施策
伝統的建造物群の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統的建造物の歴史・価値の情報発信 ○伝統的建造物の住みやすい環境

11. まちづくりの施策展開

有田内山グランドデザインは、公共による施設整備だけではなく、民間の土地・建物を利活用した施設整備やイベントの開催等、ハード及びソフト事業を行政と住民、NPO、民間事業者、関係機関・団体が協働・連携することによって実現します。そのため、これらの様々な主体がまちづくりに参加し、一体となって取り組む必要があります。

内山地区のビジョンの実現に向けて、同地区の現状と課題を踏まえつつ、それぞれの事業の有効性や問題点を洗い出しを行いながら事業を展開していきます。



12. 札の辻周辺の現状と課題

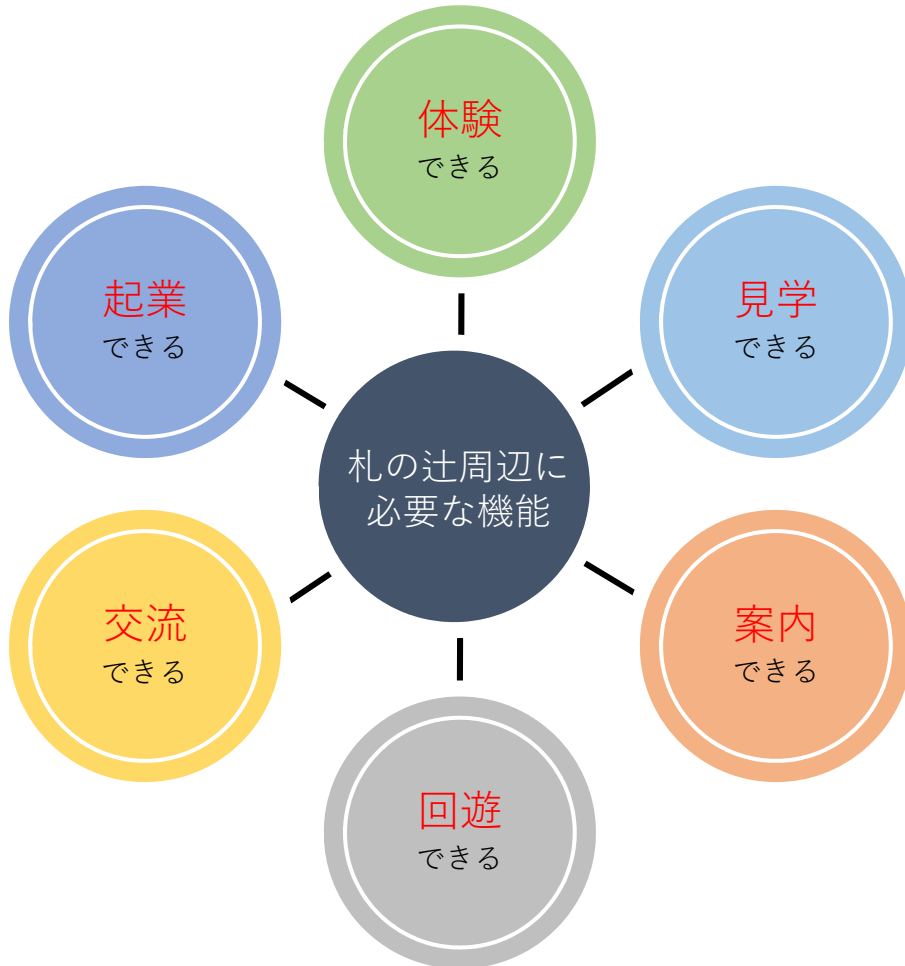
札の辻周辺には、「野外博物館」と称されるほどに磁器製の奉納品が充実した陶山神社や、佐賀県初の登録博物館である有田陶磁美術館、擬洋風建築の特徴を備えた旧田代家西洋館等、内山地区の中でも歴史・文化資産が集積していることもあり、観光集客の中心的な場所であるため、町並みや裏通りの散策の起点になっています。

一方で、佐賀銀行有田支店・有田商工会議所の跡地、有田館の老朽化等によって、これまでの中心地的な機能が低下しつつあり、今後、観光客の集客や賑わいの創出に大きく影響を及ぼすことが懸念されます。

内山地区全体の活性化に向けて、札の辻周辺を核とした「賑わいづくり」や「暮らしやすさ」に繋がる取り組みが必要不可欠であると考えられます。

13. 札の辻周辺に必要な機能

札の辻周辺を核とした内山地区の賑わいの創出には、下記の6つの機能が必要であると考えられ、関係機関・団体が協働連携し、それぞれの機能を持ったソフト及びハード事業に取り組んでいきます。



機能 1
体験できる
<ul style="list-style-type: none"> ○生業として仕事ができる ○絵付けやろくろ体験 ○内山地区での生活

機能 2
見学できる
<ul style="list-style-type: none"> ○町並みや重要伝統的建造物群等の見学 ○有田焼製造工程の見学

機能 3
案内できる
<ul style="list-style-type: none"> ○観光交流拠点の整備 ○「おもてなし」意識の醸成のための観光ガイドの養成

機能 4
回遊できる
<ul style="list-style-type: none"> ○回遊性のある観光プログラムの構築 ○「回遊できる」環境整備

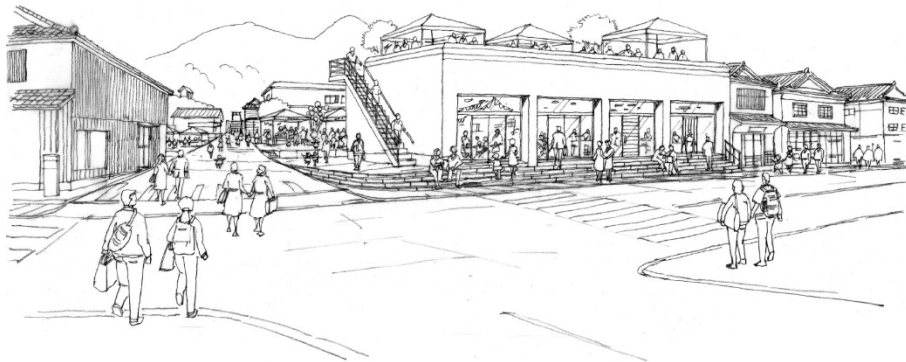
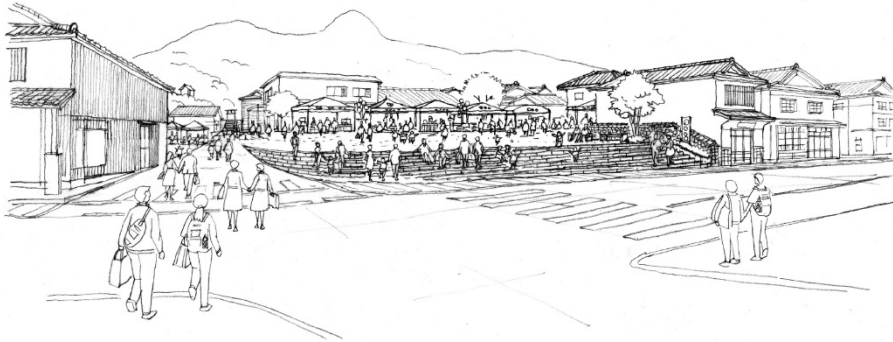
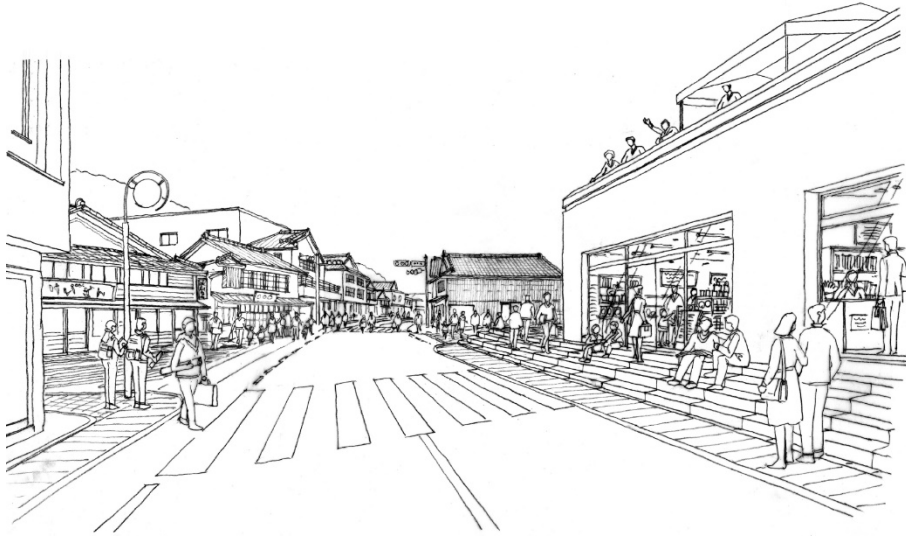
機能 5
交流できる
<ul style="list-style-type: none"> ○地域コミュニティの活性化に向けた、ソフト及びハード事業の展開

機能 6
起業できる
<ul style="list-style-type: none"> ○空き物件等を活用したサテライトオフィス等の開設 ○起業できる支援制度の充実

14. 札の辻周辺の開発イメージ

有田内山グランドデザイン検討委員会・検討部会では、限られた検討期間の中で内山地区の「暮らしやすさ」や「にぎわいの創出」に向けて議論を進める中で、特に、その拠点となる「札の辻周辺」に必要な機能についても議論を行いました。

今後、前述の基本施策に基づき、財政状況などを踏まえた上で、下図のようなイメージの具現化を図られるよう、専門的な知見や利用者となる住民の意見を十分に取り入れて進めていきます。



有田内山グランドデザイン ダイジェスト版

令和4年3月

〔編集・発行〕

有田町まちづくり課

〒849-4192

佐賀県西松浦郡有田町立部乙2202番地

TEL：0955-46-2990

FAX：0955-46-2100

E-Mail：arita@town.arita.lg.jp

URL：http://www.town.arita.lg.jp
